



2014年5月12日

各 位

会 社 名 アステラス製薬株式会社
代 表 者 代表取締役社長 畑中 好彦
コード番号 4503
(URL <http://www.astellas.com/jp>)
東 証 (第 一 部)
決 算 期 3月
問 合 せ 先 広報部長 河村 真
Tel : (0 3) 3 2 4 4 - 3 2 0 1

アステラス製薬 2014年3月期 決算説明会資料について

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：畑中 好彦）は、2014年5月12日（月）16時00分より、証券アナリスト・機関投資家・報道機関の皆様向けに2014年3月期決算説明会を開催します。

同説明会の資料は別紙の通りですが、2014年3月期業績及び2015年3月期業績予想並びに開発中新薬の進捗状況等についてまとめています。

以 上

2013年度決算概況

2014年5月12日
アステラス製薬株式会社
代表取締役社長
畑中 好彦



注意事項

資料中の業績見通し数値及び開発見通し等の将来に関する記述は、当社が現在得ている情報をもとになされた当社の判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確実な要素を含んでいます。実際の結果は、様々な要因によりこれら将来に関する記述内容とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。そのような要因の例としては、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的財産権に対する侵害、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、これらに限定されるものではありません。

医薬品(開発中の物を含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。



2013年度決算概況(日本基準)

日本基準

	2012年度 実績	2013年度 実績	増減率	2013年度 予想#	対予想 達成率
売上高	10,056	11,645	+15.8%	11,550	100.8%
売上原価	3,241	3,456	-		
売上高比率	32.2%	29.7%	-		
研究開発費	1,820	2,146	+18.0%	2,120	101.2%
売上高比率	18.1%	18.4%			
その他販管費	3,457	4,270	+23.5%		
営業利益	1,539	1,773	+15.2%	1,700	104.3%
経常利益	1,572	1,708	+8.7%	1,700	100.5%
当期純利益	829	924	+11.6%	950	97.3%

(億円)

◆ 為替の状況

2013年度3Q決算公表時の修正予想値

【期中平均レート】	2012年度	2013年度	変動	2013年度想定
ドル	83円	100円	17円安	99円
ユーロ	107円	134円	27円安	130円
【期首-期末の変動】	2012年度	2013年度		
ドル	12円安	9円安		
ユーロ	11円安	21円安		

特別損益 (net) -391億円

- ・事業再編費用(研究体制の再編、富士工場の承継)
- ・特許権などの減損損失

減価償却費 [有形+無形] (億円)

- ・2013年度: 617
- ・2012年度: 474

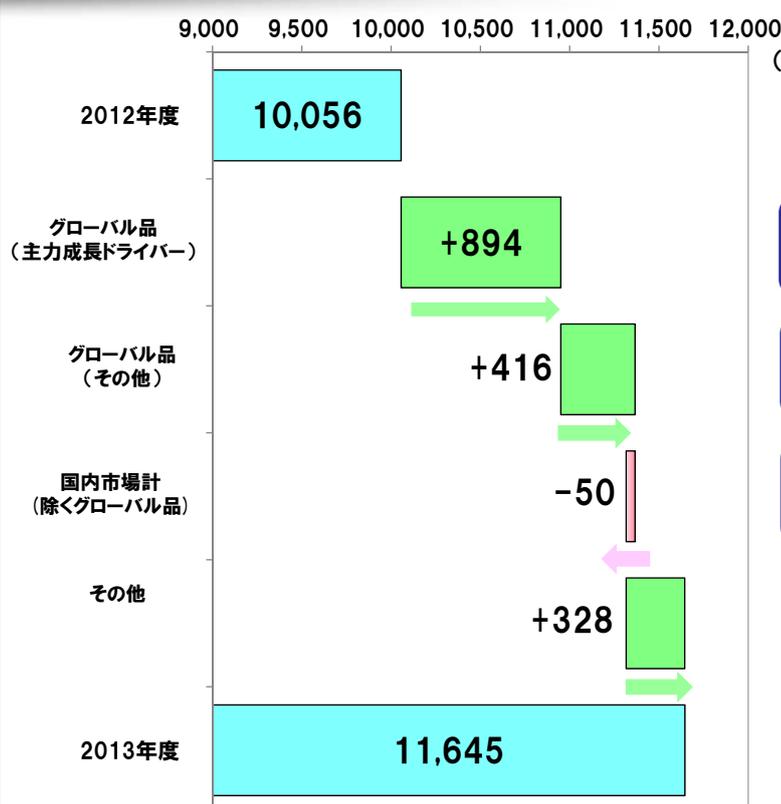
のれん償却費 (億円)

- ・2013年度: 59
- ・2012年度: 103

2

2013年度業績(日本基準): 売上高の変動要因(前期比較)

日本基準



(億円)

売上高: +1,589億円

為替の影響: +1,139億円

ベシケア+ミラベグロン +470 / XTANDI +424

プログラフ+196 / ハルナル +56 /
ファンガード+55 / プロトピック +71 / エリガード+37

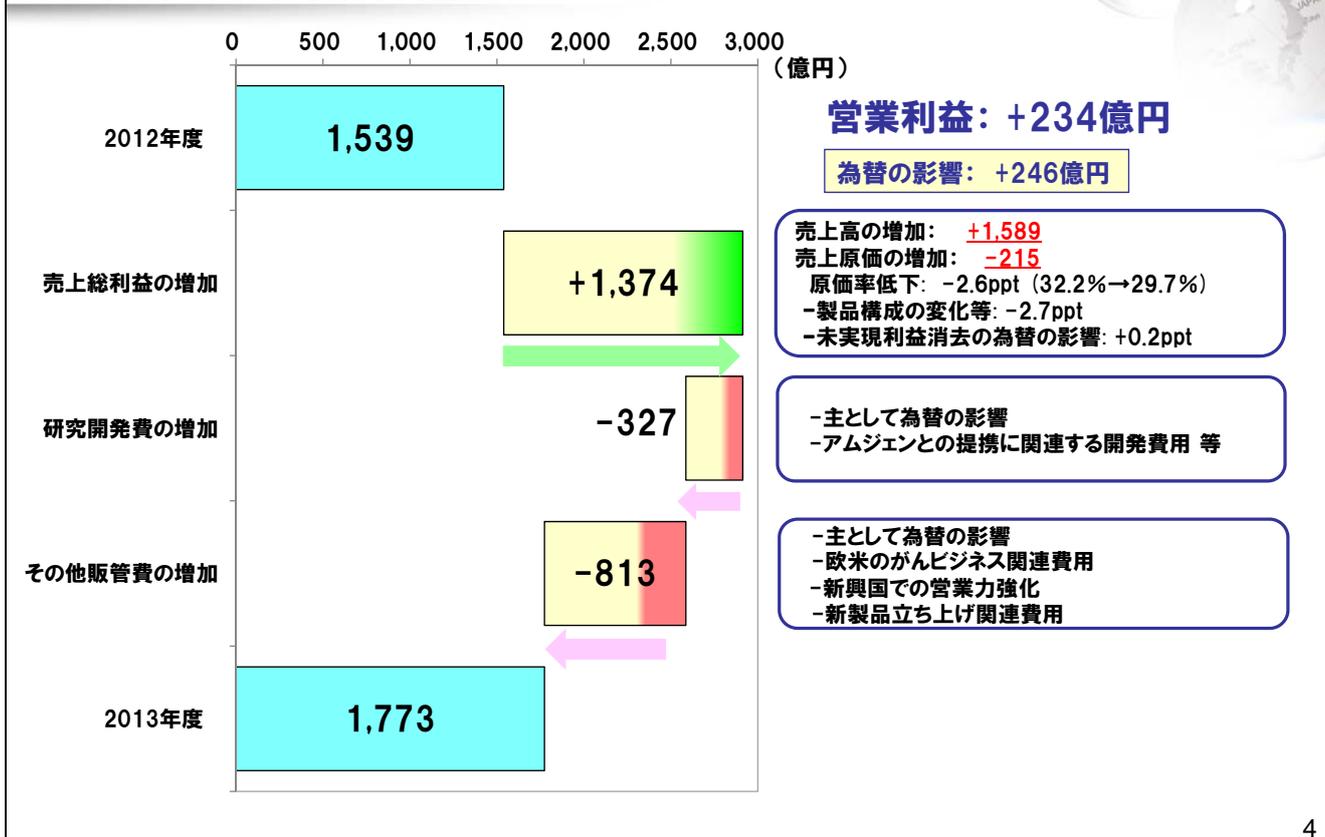
新製品+成長品 +243 / ミカルディス+79
リビートル -82 / ガスター -45 / マイスリー -40 /
セロクエル -89

スキャン +87 / タルセバ +82 /
欧州その他製品群 +175

3

2013年度業績(日本基準): 営業利益の変動要因(前期比較)

日本基準

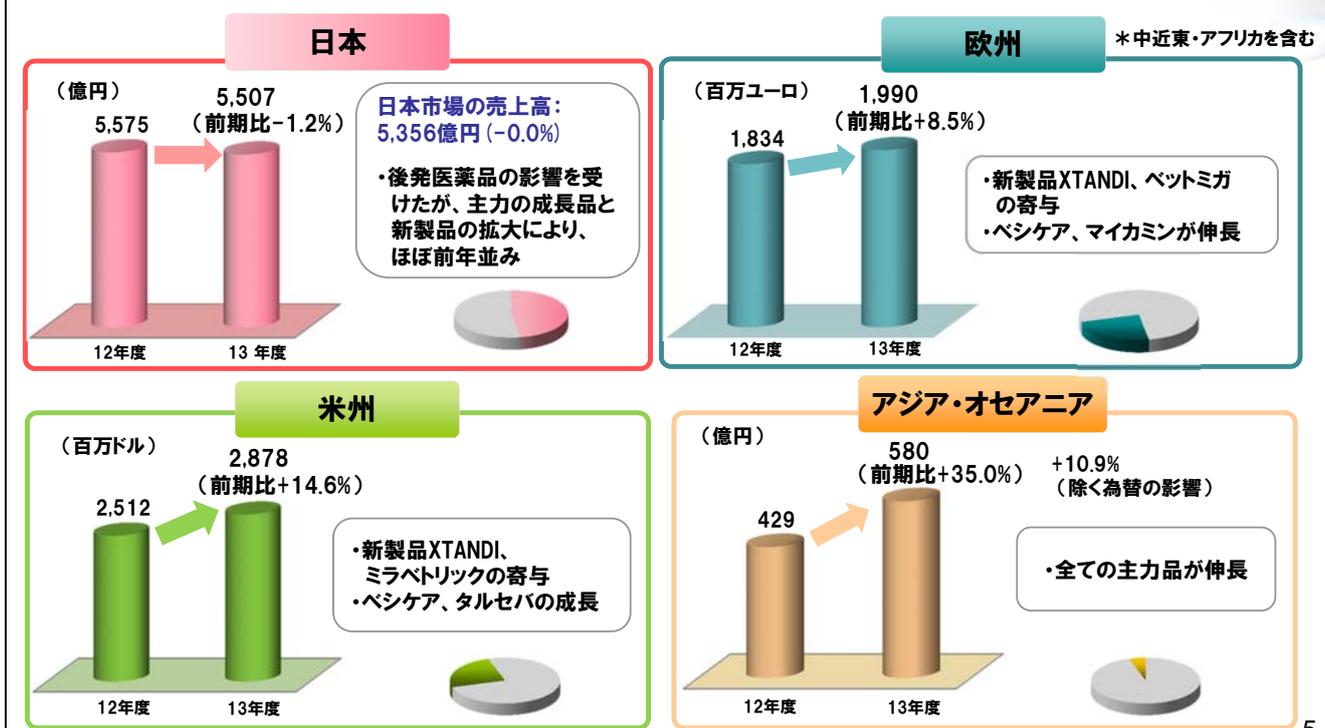


地域別売上高(現地通貨ベース)

日本基準

*売上元会社の所在地に基づき集計

日本は若干の減収。米州、欧州、アジア・オセアニアは順調に売上拡大



泌尿器OABフランチャイズ

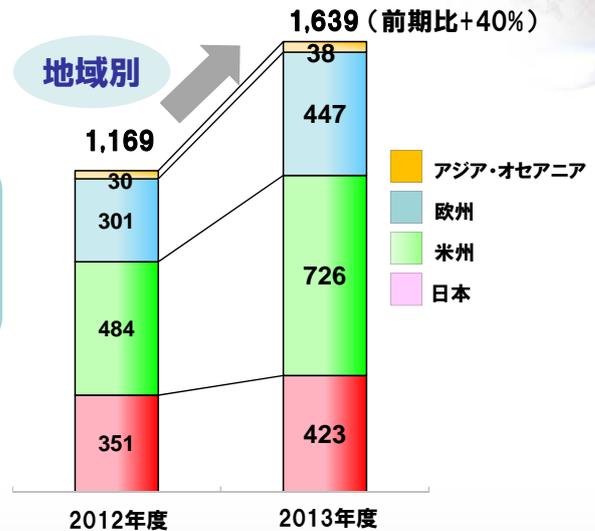
ベシケアの成長とミラベグロンの寄与で売上拡大

ベシケア、ミラベグロンの売上合計



ミラベグロン
 -ベタニス(日本)
 -ミラベトリック(米州)
 -ベットミガ(欧州)
発売国数:23

地域別



ベシケア+ミラベグロンの成長率[前期比]

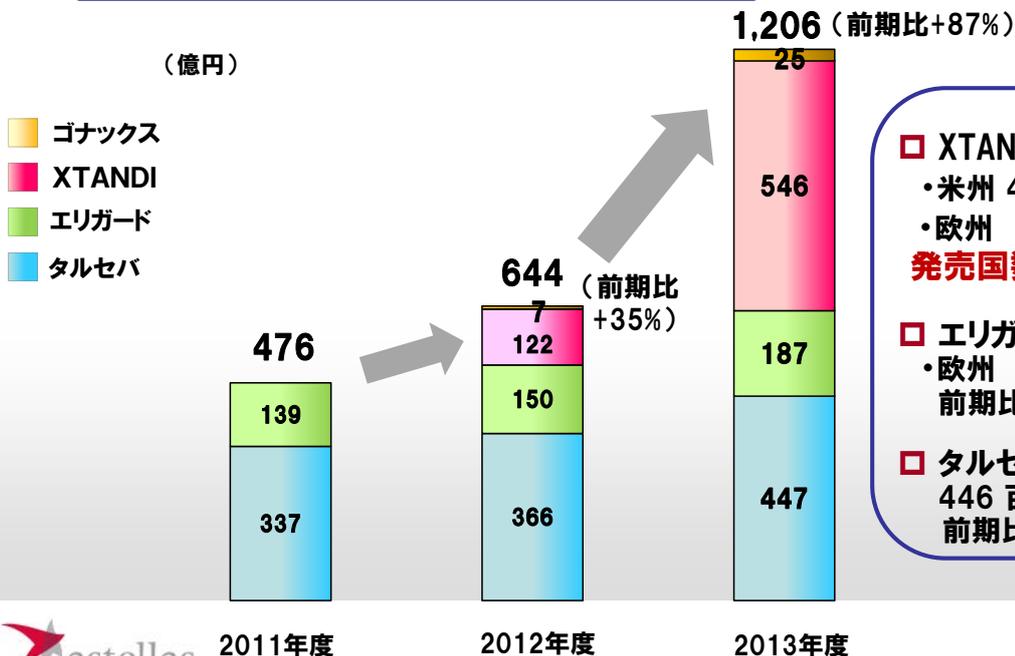
- 日本: +20%
- 米州: +24% (ドルベース)
- 欧州: +18% (ユーロベース)
- アジア・オセアニア: +16% (除く為替の影響)

OAB: 過活動膀胱

がん領域フランチャイズ

新製品XTANDIの牽引により、がんフランチャイズは大きく拡大

XTANDI、タルセバ、エリガード、ゴナックスの売上合計



XTANDI

- 米州 450 百万ドル
- 欧州 71 百万ユーロ
- 発売国数:23**

エリガード

- 欧州 139 百万ユーロ
- 前期比 -1% (ユーロベース)

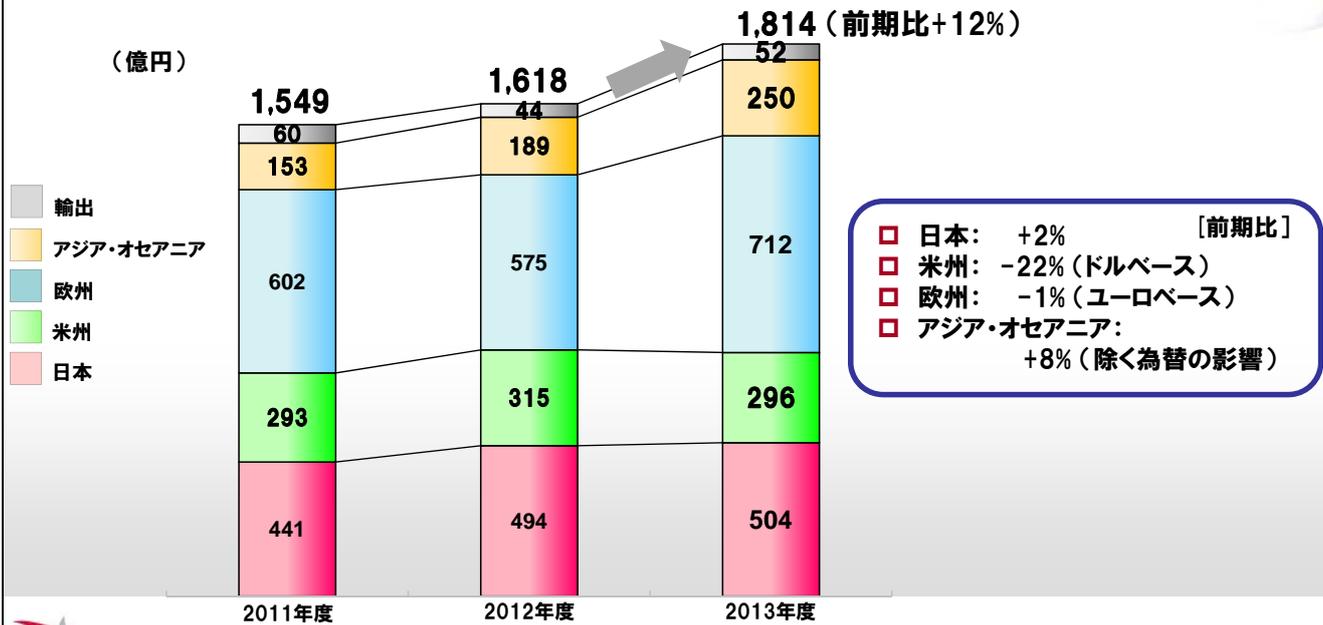
タルセバ関連収入

- 446 百万ドル
- 前期比 +1% (ドルベース)

移植フランチャイズ

アジア・オセアニアは引き続き成長し、グローバル売上を維持

プログラフ、アドバグラフ/グラセプター/アスタグラフXLの売上合計

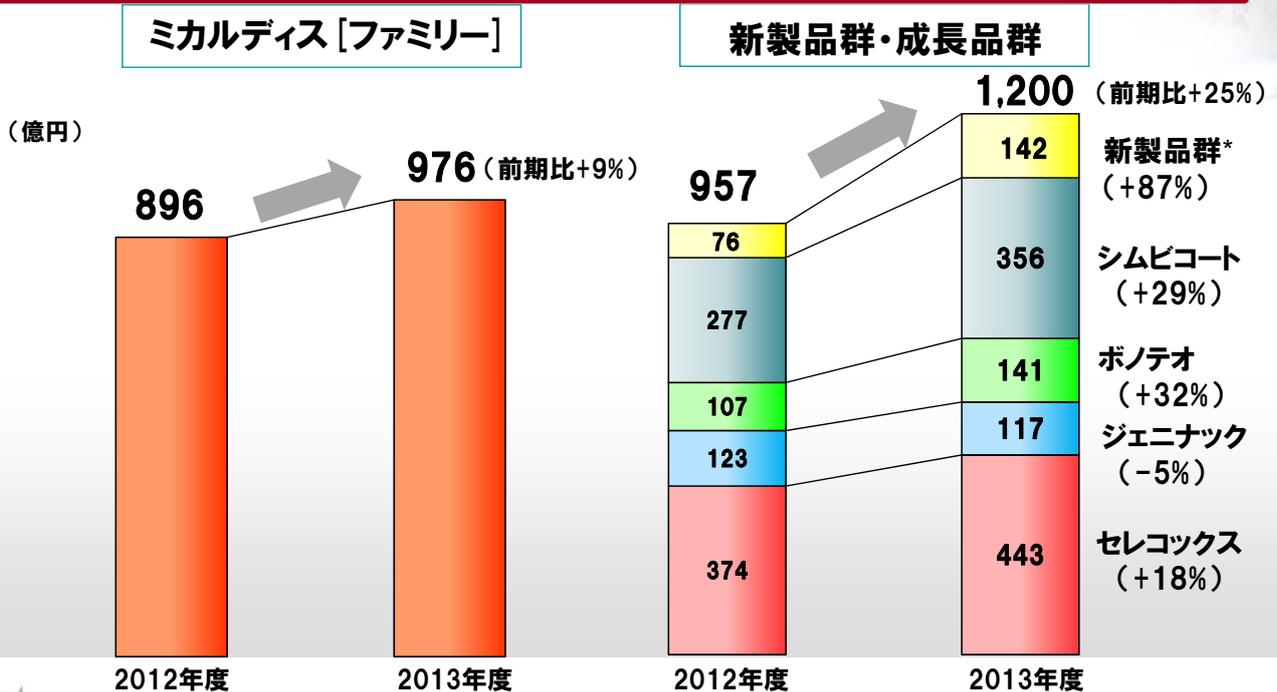


- 日本: +2% [前期比]
- 米州: -22% (ドルベース)
- 欧州: -1% (ユーロベース)
- アジア・オセアニア: +8% (除く為替の影響)



日本 主要製品群(グローバル製品除く)

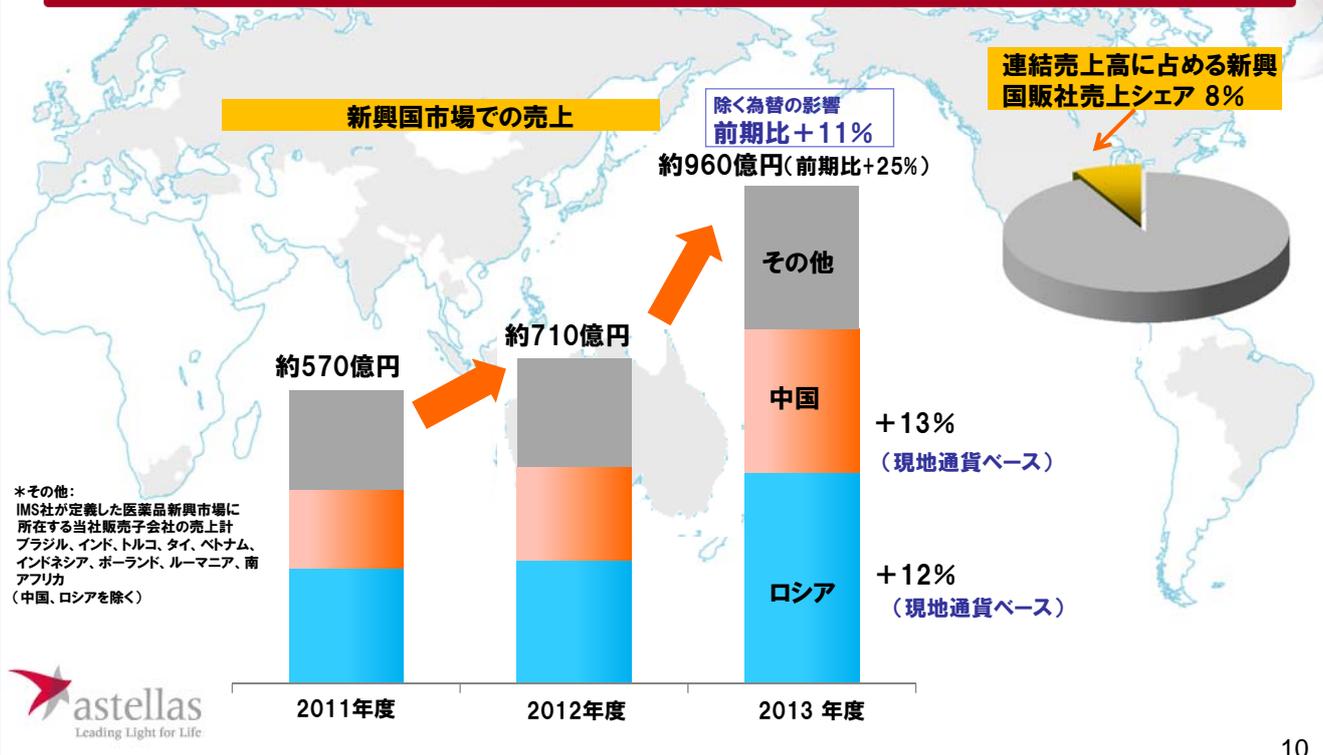
主力成長品と新製品の売上は着実に拡大



*新製品群: 3年以内に発売した製品の合計売上(アーガメイト、キックリン、レグナイト、ゴナックス、シムジア、アコファイド)

新興国ビジネスの成長

中国・ロシアを中心に新興国市場での二桁成長



10

2013年度決算概況(IFRS)

IFRS

(億円)

	コアベース*			フルベース(調整前)		
	2012年度	2013年度	増減率	2012年度	2013年度	増減率
売上高	9,819	11,399	+16.1%	9,819	11,399	+16.1%
売上原価	3,087	3,306	-	3,087	3,306	-
売上高比率	31.4%	29.0%		31.4%	29.0%	
販売費及び 一般管理費	3,189	3,970	+24.5%	3,189	3,970	+24.5%
研究開発費	1,591	1,915	+20.3%	1,591	1,915	+20.3%
売上高比率	16.2%	16.8%		16.2%	16.8%	
無形資産償却費	283	360	+27.4%	283	360	+27.4%
持分法による損益	11	15	+27.5%	11	15	+27.5%
その他の収益	-	-	-	29	116	+304.7%
その他の費用	-	-	-	493	810	+64.4%
営業利益	1,680	1,863	+10.9%	1,216	1,168	-3.9%
税引前利益	1,695	1,875	+10.6%	1,271	1,220	-4.0%
当期純利益	1,188	1,328	+11.8%	925	909	-1.7%

*コア業績: 会社の経常的な収益性を示す指標として開示。当該コア業績は、フルベース(調整前)の業績から非経常的な項目を調整項目として除外。詳細は42ページを参照。

11

2014年度業績予想(コアベース)

IFRS

(億円)

	2013年度	2014年度 予想	増減率
売上高	11,399	11,920	+4.6%
研究開発費 売上高比率	1,915 16.8%	1,980 16.6%	+3.4%
営業利益	1,863	2,080	+11.7%
当期純利益	1,328	1,540	+16.0%
EPS (円)	59.11	69.02	+16.8%

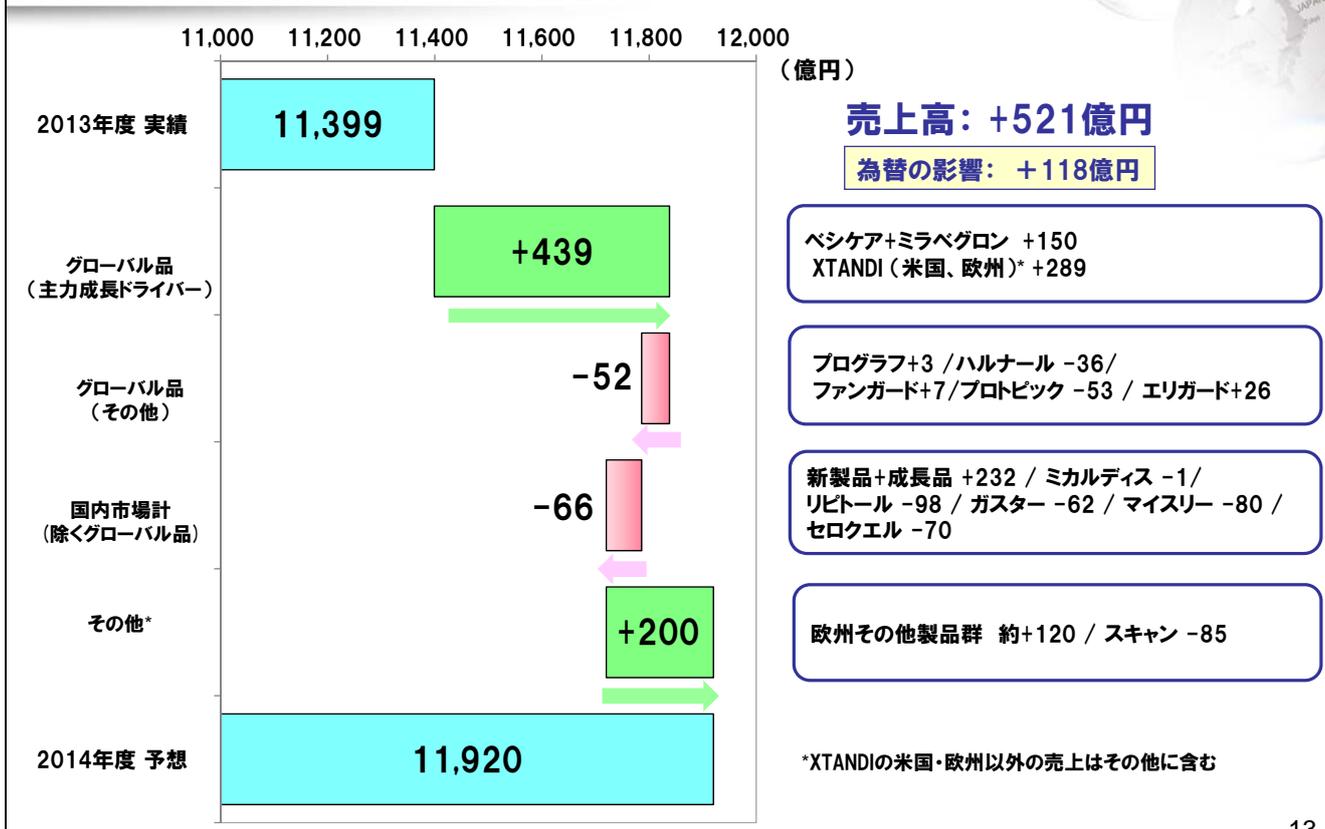
◆ 為替レート

【期中平均レート】	2013年度	2014年度 予想	変動
ドル	100円	100円	-
ユーロ	134円	140円	6円安



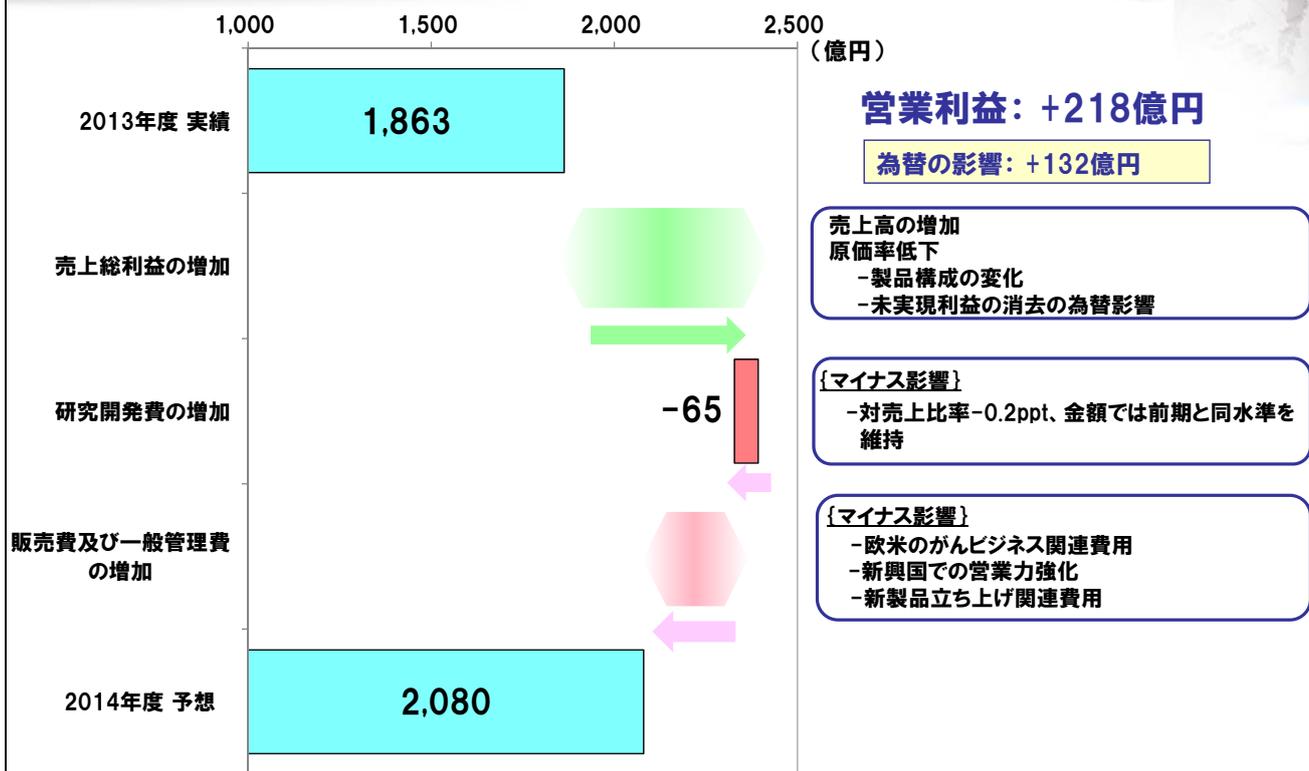
2014年度業績予想(コアベース): 売上高の変動要因(前期比較)

IFRS



2014年度業績予想(コアベース): 営業利益の変動要因(前期比較)

IFRS

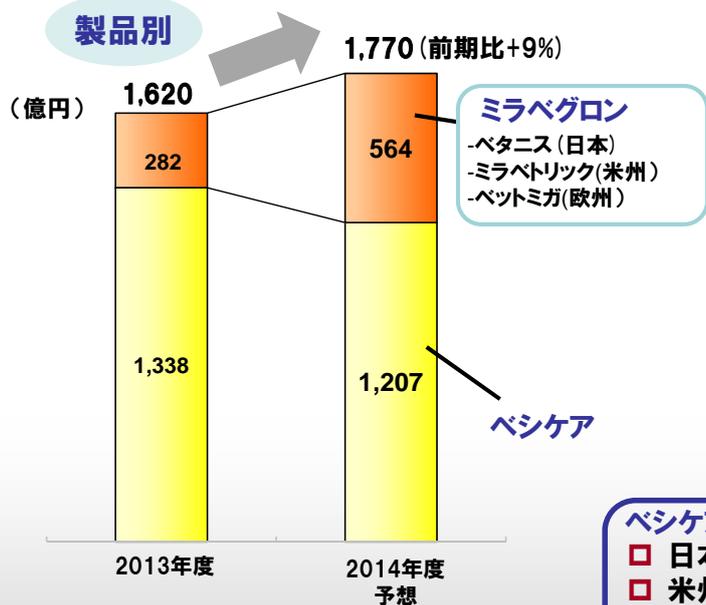


泌尿器OABフランチイズ 2014年度予想

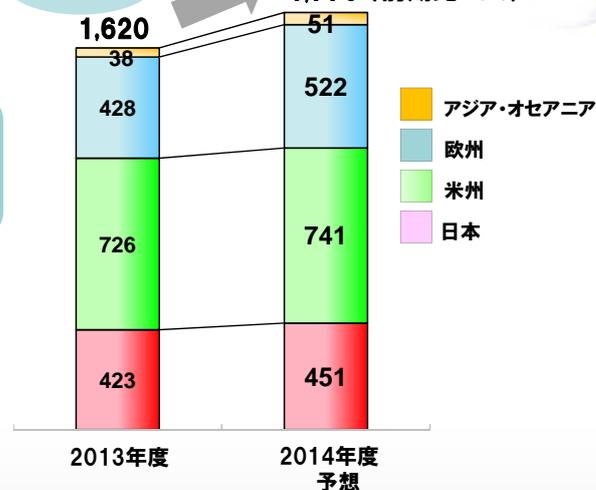
IFRS

ベシケアとミラベグロンの両剤で、OABフランチイズを更に強化

ベシケア、ミラベグロンの売上合計



地域別 1,770 (前期比+9%)



ベシケア+ミラベグロンの成長率[前期比]

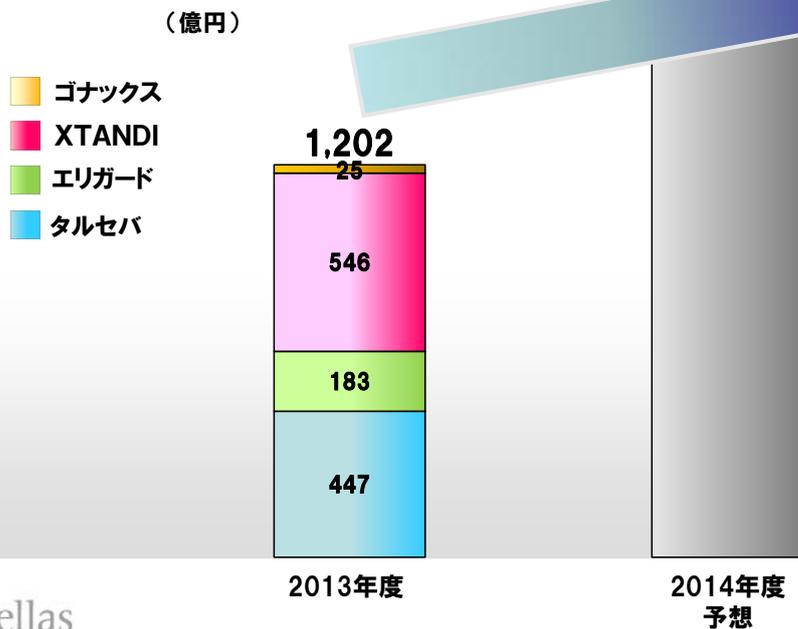
- 日本: +7%
- 米州: +2% (ドルベース)
- 欧州: +17% (ユーロベース)
- アジア・オセアニア: +26% (除く為替の影響)

がん領域フランチャイズ 2014年度予想

IFRS

XTANDIがグローバルに貢献し、がんフランチャイズは更に拡大

XTANDI、タルセバ、エリガード、ゴナックスの売上合計

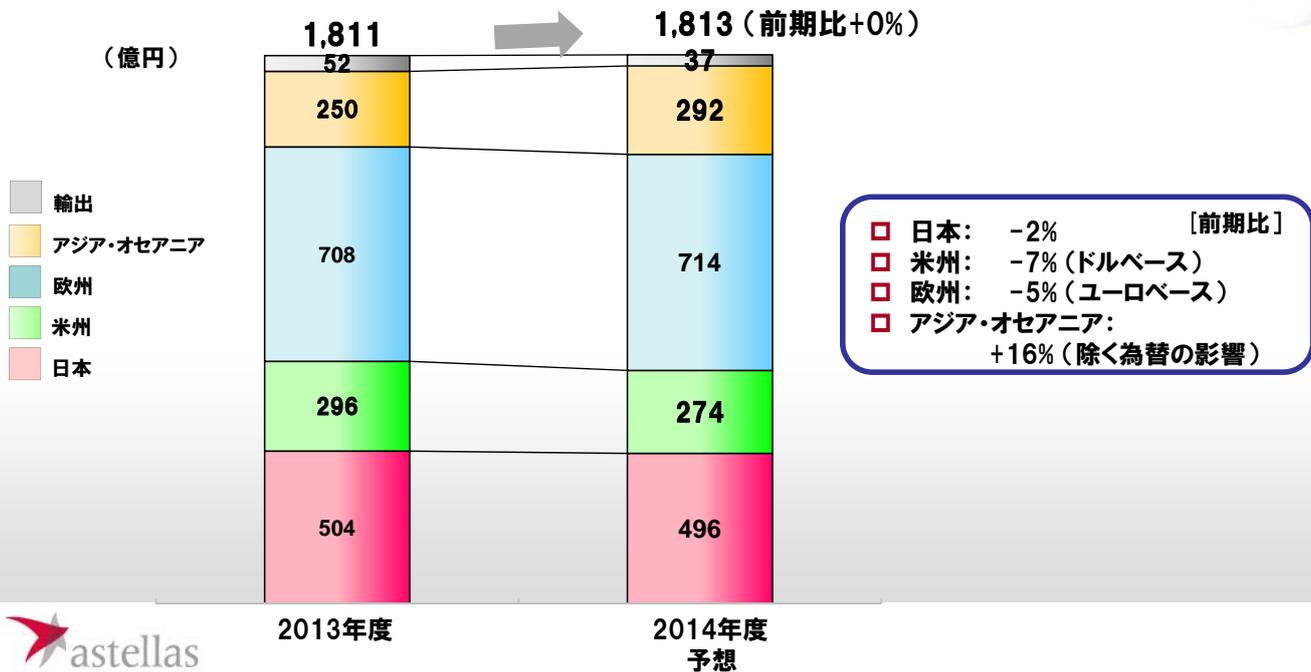


移植フランチャイズ 2014年度予想

IFRS

アジアは引き続き成長、グローバルの売上を維持

プログラフィ、アドバグラフィ/グラセプター/アスタグラフィXLの売上合計



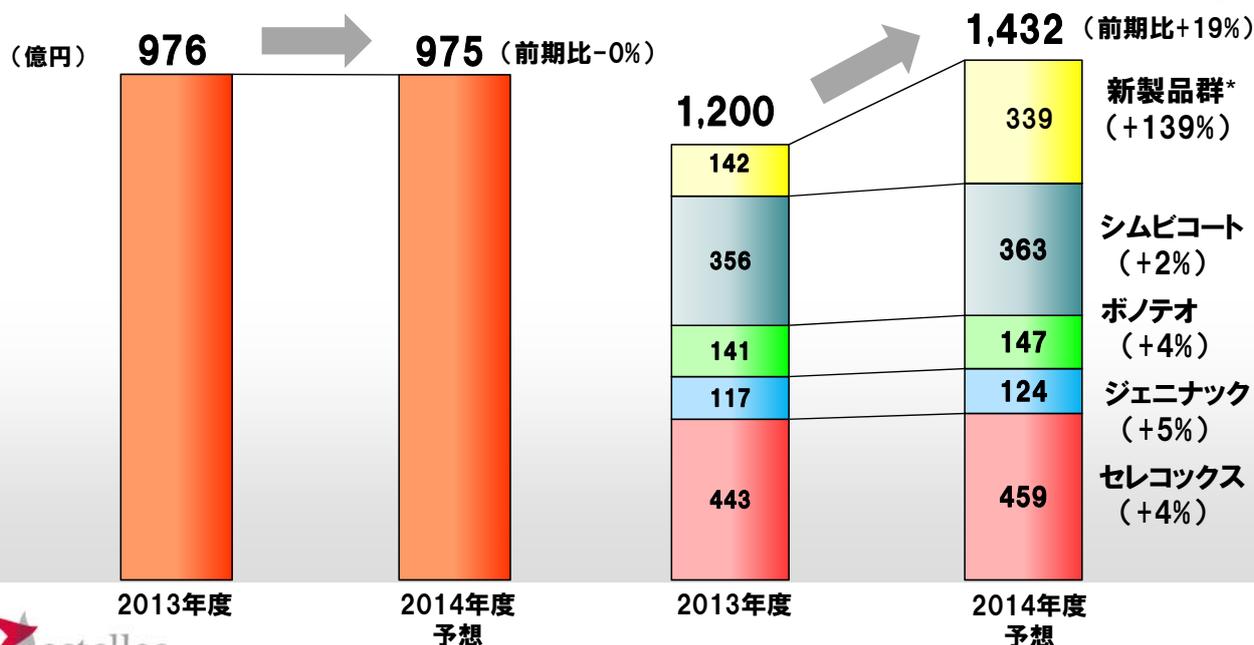
日本 主要製品群(グローバル製品除く) 2014年度予想

IFRS

主力成長品と新製品の売上は着実に拡大

ミカルディス [ファミリー]

新製品群・成長品群



*新製品群: 3年以内に発売した製品の合計売上(スーグラ、アーガメイト、キックリン、レグナイト、ゴナックス、シムジア、アコファイド)

新薬パイプライン



パイプラインの状況

Phase 1

ASP3652 (日)
ミラベグロン (小児)
ASKP1240 (日)
AGS16M8F・AGS-16C3F
ASG-22ME
ASP1707 (前立腺がん、欧)
ASG-15ME
ASP2215
ASP5878
AMG 337
ASP8273
AGS67E
ASP9226
ASP3662
ASP7962
ASP3700
YM311 (日)
ASP8232
ASP3325
CK-2127107
ASP7657

Phase 2

ASP3652 (BPS/IC、欧)
ASP4901 (AKP-002) (BPH、日)
ASP0113 (VCL-CB01) (臓器移植時CMV感染抑制、欧米)
ASP015K (関節リウマチ、日)
ASKP1240 (移植、米)
ASP7373 (インフルエンザH5N1、日)
エンザルタミド (乳がん、欧米)
ASP8477 (神経因性疼痛、欧)
roxadustat (日)
YM311 (腎性貧血、欧)
ASP1707 (子宮内膜症、欧日)
リナクロチド (IBS、日)
ASP7991 (副甲状腺機能亢進症、日)
ビキサロマー (顆粒製剤、日)

Phase 3

ソリフェナジン (小児、欧米)
ソリフェナジン/ミラベグロン (欧米並)
ASP0113 (BCL-CB01) (HCT時CMV感染抑制、欧米日)
フィダキノマイシン (感染性肺炎、日)
セルトリスマブ ヘゴル (MTX未治療 関節リウマチ、日)
ASP7374 (季節性インフルエンザ、日)
イサブコナゾール (アスペルギルス、カンジダ、米)
エンザルタミド (化学療法未治療:日並、非転移性:欧米並)
エルロチニブ (小児、米)
デガレリクス (3ヶ月製剤、日)
rilotumumab (胃がん、日)
クエチアピン (双極性障害、日)
カプサイジン (糖尿病性神経因性疼痛、欧)
roxadustat (慢性腎疾患に伴う貧血、欧)
ペラプロスト ナトリウム (慢性腎不全、日並)
ビキサロマー (保存期慢性腎不全 高リン血症、日)
ラモセトロン (IBS 女性、日)
ナテグリコド (DPP-4併用、日)
romosozumab (骨粗しょう症、日)
evolocumab (脂質異常症、日)

申請

エンザルタミド
(化学療法未治療 前立腺がん、欧米)

疾患領域:

- 泌尿器疾患
- 免疫疾患(移植を含む)および感染症
- がん
- 精神・神経疾患
- 糖尿病合併症および腎疾患、その他
- 新規分子成分

BPH:前立腺肥大症、BPS/IC:膀胱痛症候群/間質性膀胱炎、CMV:サイトメガロウイルス、IBS:過敏性腸症候群、MTX:メトトレキサート、HCT:造血細胞移植

20

2014年2月からの変化 <承認、申請>

■ 承認

製品名 (一般名)	対象疾患	地域	ステージ	変化
イクスタンジ (エンザルタミド)	去勢抵抗性前立腺がん*	日本	承認	2014年3月に日本で承認。

*効能・効果に関連する使用上の注意として、化学療法未治療の前立腺がんにおける有効性及び安全性は確立していない旨の記載あり。

■ 申請

開発コード 一般名	対象疾患	地域	ステージ	変化
MDV3100 エンザルタミド	化学療法施行歴のない転移性去勢抵抗性前立腺がん	米国 欧州	申請	2014年3月に米国で、2014年4月に欧州で申請(効能追加)。米国で優先審査に指定され、審査終了目標日(PDUFA Date)は2014年9月18日。

2014年2月からの変化 <ステージアップ、契約変更>

■ ステージアップ

開発コード 一般名	対象疾患	地域	ステージ	変化
ASP0113 (VCL-CB01)	造血細胞移植時の サイトメガロウイルス感染抑制	米国/ 欧州/ 日本	P3	日本でP3入り。
ASP1585 (AMG 223) ビキサロマー	透析中の慢性腎不全 患者における高リン血症 (顆粒製剤)	日本	生物学的 同等性 試験	日本で剤形追加の ための試験を開始。

■ ライセンス契約変更

一般名	対象疾患	地域	ステージ	変化
イサブコナゾール	侵襲性アスペルギルス	米国* 欧州	P3	ライセンス契約変更に伴い開発 地域を変更。 侵襲性アスペルギルスについて、 米国で申請準備中。
	カンジダ血症/ 侵襲性カンジダ症			

*変更後の契約対象地域は米国、カナダ

2014年2月からの変化 <新規P1>

開発コード 一般名	対象疾患	ステージ	変化
YM178 ミラベグロン	小児の神経因性膀胱と 過活動膀胱	P1	欧米でP1入り。
ASP7657	糖尿病性腎症	P1	新規P1入り。
ASP3700	変形性関節症	P1	新規P1入り。
AGS67E	がん(ADC技術活用)	P1	新規P1入り。

2014年2月からの変化 <パイプラインリストから削除>

開発コード 一般名	対象疾患	地域	ステージ	備考
ASP4130 チボザニブ	大腸がん、 乳がん	米国/ 欧州	P2	<ul style="list-style-type: none"> ・大腸がん、乳がんのP2試験を中止した。 ・試験を実施した3つの適応症(腎細胞がん、大腸がん、乳がん)での臨床試験の状況を踏まえ、戦略的な理由により、ライセンス契約の解約権を行使した。2014年8月11日に契約を終了し、チボザニブの権利をAVEO社に返還する。
エルロチニブ	非小細胞肺がん (MetMabとの 併用療法)	米国	P3	非小細胞肺がん(MetMabとの併用療法)について、開発を行っているRoche社が試験を中止したため、パイプラインリストから削除した。

2014年2月からの変化 <開発中止>

開発コード 一般名	対象疾患	地域	ステージ	中止理由
ASP7487 (OSI-906) リンシチニブ	卵巣がん	米国	P2	P2試験において期待された有効性の結果が得られなかったため、開発を中止した。
ASP0306	前立腺肥大症に伴う 排尿障害	—	P1	戦略的な観点から開発を中止した。
ASP6432	前立腺肥大症に伴う 排尿障害	—	P1	戦略的な観点から開発を中止した。
ASP9853	がん	—	P1	戦略的な観点から開発を中止した。

抗がん剤パイプライン

最も開発の進んでいる地域のフェーズ

	プロジェクト	がん種	特徴	P1	P2	P3	申請	
低分子	エンザルタミド (XTANDI)	前立腺がん (化学療法未治療、非転移性)、乳がん	アンドロゲン受容体阻害剤	去勢抵抗性前立腺がん: 日本				承認
				化学療法未治療: 欧米日亜				欧米で申請
				非転移性: 欧米亜				
				乳がん: 欧米				
	エルロチニブ (タルセバ)	小児上衣腫	HER1/EGFRチロシナーゼ阻害剤	米国				
	デガレリクス (ゴナックス)	前立腺がん	日本初のGnRHアンタゴニスト	3M製剤: 日本				
	ASP1707	前立腺がん*	経口のGnRHアンタゴニスト					
	ASP2215	急性骨髄性白血病	FLT3/AXL阻害剤					
ASP5878	がん							
AMG 337	胃がん	MET阻害剤	日本					
ASP8273	非小細胞肺癌	EGFR T790M阻害剤						
抗体	rilotumumab AMG 102	胃がん	抗HGF抗体	日本				
	AGS-16M8F・ AGS-16C3F	腎臓がん	ADC技術を活用した抗体 (標的: ENPP3)					
	ASG-22ME	固形がん	ADC技術を活用した抗体 (標的: ネクチン-4)					
	ASG-15ME	膀胱がん	ADC技術を活用した抗体 (標的: SLITRK6)					
	AGS67E	悪性リンパ腫	ADC技術を活用した抗体 (標的: CD37)					

*子宮内腺症でP2

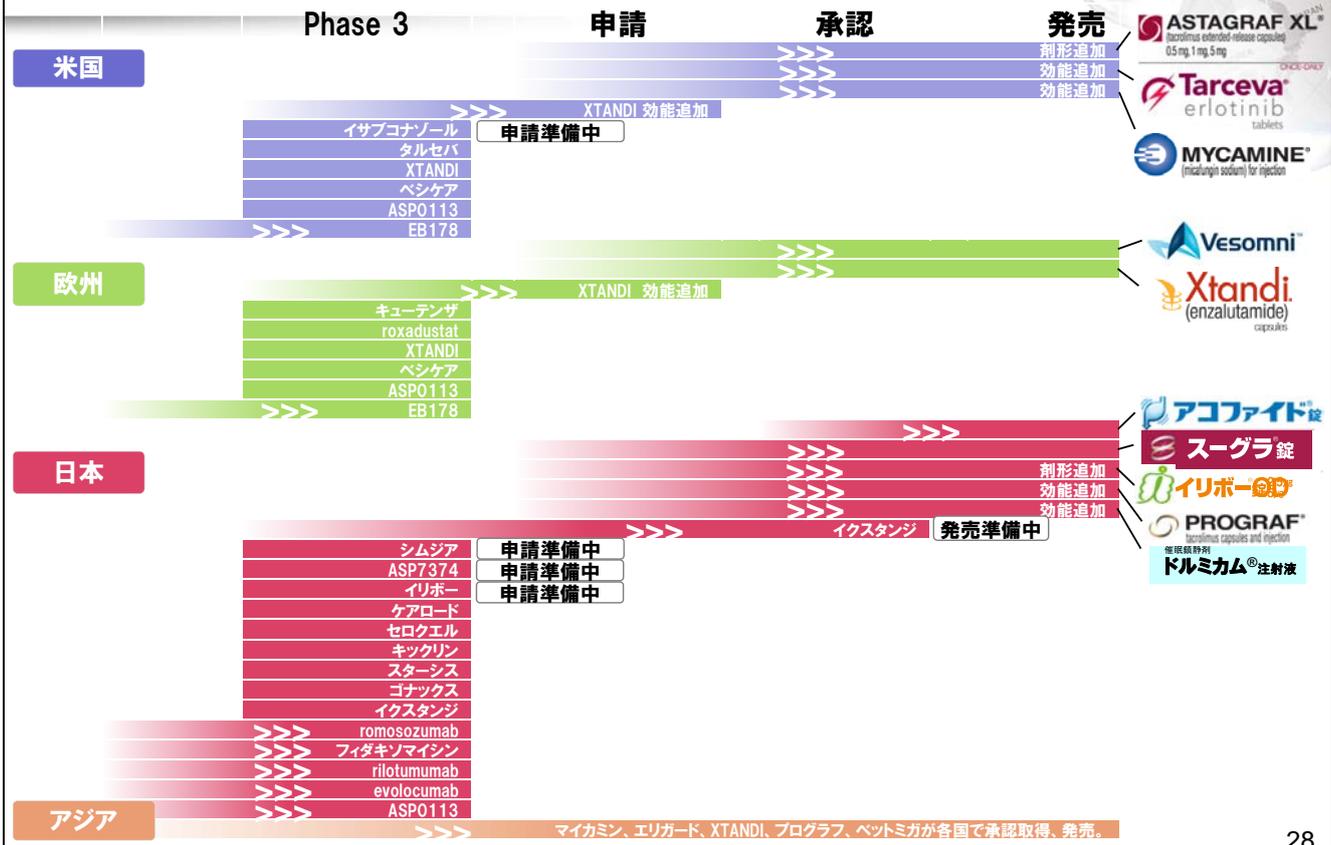
26

エンザルタミド: 開発の進展

試験	対象	デザイン	P1	P2	P3	申請
欧米日亜 P3試験 [PREVAIL試験]	化学療法未治療 転移性去勢抵抗性前立腺がん	プラセボ対照 (n=1,717)	米国: 2014年3月17日申請 優先審査に指定、 審査終了目標日は2014年9月18日。 欧州: 2014年4月2日申請			
欧米亜 P3試験 [PROSPER試験]	MO CRPC 非転移性去勢抵抗性前立腺がん	プラセボ対照 (n=1,500)	患者組み入れ開始: 2013年11月			
欧米 P2試験 [TERRAIN試験]	化学療法未治療 転移性去勢抵抗性前立腺がん	ヒカルタミドとの比較 試験 (n=375)	患者組み入れ終了: 2013年7月			
米国 P2試験 [STRIVE試験]	化学療法未治療 転移性または非転移性 去勢抵抗性前立腺がん	ヒカルタミドとの比較 試験 (n=400)	患者組み入れ終了: 2014年3月			
米国 P2試験	ネオアジュバント療法 前立腺切除術実施前	単剤またはリュープロ レリン、デュタステリド との併用 (n=50)	最終症例投与終了: 2013年11月			
欧州 P2試験	ホルモン療法未治療 進行性前立腺がん	オープン試験 (n=67)	試験終了			
欧米 P2試験	乳がん アンドロゲン受容体陽性の トリプルネガティブ進行再発乳がん	オープン試験 (n=80)	患者組み入れ開始: 2013年6月			
欧米 P2試験	乳がん エストロゲン受容体陽性または プロゲステロン受容体陽性で HER2正常の進行性乳がん	プラセボ対照、エキセ メスタンとの併用 (n=240)	患者組み入れ開始: 2013年12月			
欧米 P2試験	乳がん HER2陽性の進行性乳がん	オープン試験 (n=80)	患者組み入れ開始 予定: 2014年2Q			

27

2013年度 多くの後期開発品が進展



継続成長に向けた取り組み

-Build Resilience for Sustainable Growth-

2014中期計画のレビュー(主な取り組み)

持続的な成長を目指し、成長戦略／効率化戦略を着実に推進

領域戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 泌尿器OABフランチャイズの強化 (ベシケアの成長、ミラベグロン・ベソムニ発売) ■ がん領域事業の立上げ(XTANDI・ゴナックス発売) ■ 将来の領域の育成(roxadustatのP3入りなど)
地域戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各地域での新製品の継続上市 ■ アムジェン社との日本における戦略的提携 ■ 新興国市場での販売基盤の強化(特に、中国・ロシア)
R&Dイノベーション戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研究体制の再編と新たな仕組みの導入 ■ 新規疾患・基盤技術への取り組み (疾患フロンティア研究室の新設、マイトカイン社等との提携、再生医療/ワクチンなど) ■ プロジェクトの優先順位付け/マルチトラックR&Dの推進
効率化戦略	<ul style="list-style-type: none"> ■ グローバルマネジメント体制の強化 (メディカル、マーケティング、信頼性保証) ■ 最適生産体制の構築(富士工場*の承継) ■ グループ共通業務(一部)のアウトソーシング ■ 国内事業所の集約、資産売却 など

戦略課題

新製品価値の最大化

新薬創出力の強化

Operational Excellenceの追求

*現在は日医工ファーマテック(株) 静岡工場

30

2014中期計画のレビュー(計数面)

日本基準

パテントクリフを克服し、成長トレンドへ
但し、利益レベルの一層の底上げが課題

	中期計画 FY2014目標	FY2014 業績予想*	主な差異理由
売上高	10,960	12,156	+1,196億円(うち、為替影響 約+1,390億円) <プラス要因> ・XTANDIの発売と拡大 など <マイナス要因> ・後発医薬品の浸食拡大 ・想定を下回るグローバル製品以外の新製品の売上 など
営業利益	2,260	1,970	-290億円(うち、為替影響 約+350億円) <マイナス要因> ・製品構成変化による粗利益の減少 ・研究開発費の増加(後期臨床試験の増加等) ・販管費の増加(がん事業の先行投資) など
(研究開発費 比率)	(概ね16% 以上)	(18%台 半ば)	
ROE	15%以上		
DOE	6%以上		
為替の前提	ドル: 80円 ユーロ: 110円	ドル: 100円 ユーロ: 140円	ドル: 20円安 ユーロ: 30円安
上記による利益レベルの低下から、目標を下回る見通し			

*業績予想(IFRS)を日本基準にて算出

31

戦略課題への取り組み(2014年2月以降の取り組み)

新製品価値の 最大化

がん領域の強化(XTANDI拡大・追加適応症)
OABフランチャイズの最大化(ベシケア、ミラベグロン)
継続的な新製品の上市(日本 スーグラ、イクスタンジなど)

新薬創出力の 強化

研究体制の改革

- 外部リソースの活用によるオープンイノベーション推進
- 新たな疾患領域や創薬基盤技術への挑戦

新たな取り組み

- 再生医療研究ユニットの設置
- 第一三共との化合物ライブラリー交換
- LIBDコンソーシアムへの参画

Operational Excellence の追求

経営資源配分の最適化と外部リソースの活用

新たな取り組み

- グローバル信頼性保証機能(薬事・薬事監査・品質保証機能)の強化

32

継続的な新製品投入(2013年4月以降の取り組み)

■4極における承認・発売(赤字:前回決算発表からのアップデート)

【欧州】

- 7月 XTANDI発売
- 9月 ベソムニ発売

【アジア・オセアニア】

- 5月 オーストラリア
マイカミン承認
- 6月 香港
エリガード発売
- 8月 マレーシア
マイカミン承認
- 10月 韓国
XTANDI発売
- 10月 インドネシア
プログラフXL発売
- 11月 タイ
エリガード発売
- 12月 ベトナム
エリガード承認
- 12月 香港・韓国
ベツミガ承認
- 12月 シンガポール
マイカミン承認
- 14年2月 シンガポール
エリガード承認
- 14年3月 台湾
ベツミガ承認
- 14年4月 オーストラリア
ベツミガ発売

【日本】

- 5月 ミカムロBP発売
- 6月 アコファイド発売
- 6月 プログラフ効能追加
- 9月 ビソノテープ発売
- 12月 ドルミカム効能追加
- 14年1月 イリボーOD錠発売
- 14年3月 **イクスタンジ承認**
- 14年4月 **スーグラ発売**

【米州】

- 4月 カナダ
ミラベリック発売
- 5月 米国
タルセバ効能追加
- 6月 米国
マイカミン 小児への
効能追加
- 6月 カナダ
XTANDI発売
- 8月 米国
アスタグラフXL発売
- 14年4月 アルゼンチン
XTANDI発売

発売国数

- ミラベグロン: 23
- XTANDI: 23

33

新製品 日本:スーグラ、イクスタンジ

スーグラ
(2014年4月 日本発売)

- 選択的SGLT2阻害剤

【効能効果】
2型糖尿病



イクスタンジ
(日本発売準備中)

- 経口アンドロゲン受容体阻害剤

【効能効果】
去勢抵抗性前立腺癌*



*効能・効果に関連する使用上の注意として、化学療法未治療の前立腺癌における有効性及び安全性は確立していない旨の記載あり。

新たな疾患領域や創薬基盤技術への挑戦

骨格筋の減弱に関連する疾患や病状に対する新規の治療法の開発	<ul style="list-style-type: none"> サイトキネティクス社と研究、開発、及び商業化に関する提携 	
ミトコンドリア機能を改善する新薬の創製	<ul style="list-style-type: none"> マイトカイン社と共同研究・開発 (独占的会社買取オプション) 	
遺伝子組換えカイコを用いて生産されるヒト型タンパク質の医薬品応用	<ul style="list-style-type: none"> 免疫生物研究所と共同研究 	
RSウイルス*感染予防ワクチンの開発	<ul style="list-style-type: none"> クリアパス社との戦略的提携により、マイメティックス社からワクチンを導入 	
再生医療への取り組みを拡大	<ul style="list-style-type: none"> 再生医療ユニットの設置 	
候補化合物の多様化による革新的新薬の創出	<ul style="list-style-type: none"> 第一三共との化合物ライブラリ相互利用 (各々40万化合物を交換) 	
精神・神経疾患治療薬創製に向けた企業の枠を超えたアカデミアとの連携	<ul style="list-style-type: none"> LIBDコンソーシアムへの参画 	

*呼吸器合胞体ウイルス

利益配分等に関する方針

- ▶ 成長を実現するための事業投資を最優先
- ▶ 中長期的な利益成長に基づき、配当は安定的かつ持続的に向上
- ▶ 自己株式取得は機動的に実施

	2012年度	2013年度	2014年度(予想)
コアEPS*	51.73円	59.11円	69.02円
一株配当	26円	27円 (予定)	29円
ROE*	8.0%	7.4%	—
DOE*	5.2%	5.0% (予定)	—
自己株式取得 (単元未満株式買取分を除く)	54百万株 494億円	25百万株 300億円	機動的に実施
自己株式消却	—	55百万株	25百万株 (予定)

*IFRS

[注] 2014年4月1日を効力発生日として普通株式1株を5株に分割する株式分割を考慮した数値
(2012年度、2013年度の数値は便宜的に株式分割後ベースに引き直して記載)、
実際の一株配当は、2012年度は130円、2013年度は135円(予定)。



36

自己株式取得

資本効率と株主還元の更なる向上を図る

5月12日、取締役会において自己株式取得に係る事項を決定

- 取得を行う理由 資本効率と株主還元の更なる向上を図るため
- 取得対象株式の種類 当社普通株式
- 取得しうる株式の総数 24百万株(上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合:1.08%)
- 株式の取得価額の総額 300億円(上限)
- 取得期間 2014年5月13日から2014年6月23日まで

*2014年3月31日時点の自己株式の保有状況(便宜的に株式分割後ベースに引き直して記載)
発行済株式総数(自己株式を除く) 2,284,823,175株
自己株式数 53,681,395株



37

今後の予定

2014年7月10日(木)
R&Dミーティング

2014年8月1日(金)
2014年度第1四半期決算発表

参考資料

2013年度業績： IFRS(フルベース(調整前))と日本基準との比較概要

(億円)

日本基準	14/3期 日本基準	14/3期 IFRS	差異	IFRS	主要な差異の説明
売上高	11,645	11,399	-246	売上高	代理人取引に係る売上高の純額表示(売上原価と相殺)
売上原価	3,456	3,306	-150	売上原価	代理人取引 支払ランニングロイヤリティを販売費及び一般管理費から売上原価へ振替
売上総利益	8,189	8,093	-96	売上総利益	
研究開発費	2,146	1,915	-232	研究開発費	製品導入費用の資産化影響等 一部のPMS費用を販売費及び一般管理費へ振替
研究開発費を除く 販売費及び一般管理費	4,270	3,970	-300	販売費及び一般管理費	のれん償却の停止 無形資産償却費を販売費及び一般管理費から独立科目として振替 一部のPMS費用を研究開発費から振替
—		360	360	無形資産償却費	無形資産償却費を販売費及び一般管理費から振替
—		15	15	持分法による損益	
—		116	116	その他の収益	主に特別利益から振替(固定資産売却益、子会社株式売却益等)
—		810	810	その他の費用	主に特別損失から振替(減損損失、事業再編費用等) IFRSで追加された無形資産の減損 (IFRSでは移行日で過去の製品導入費用を無形資産として計上)
営業利益	1,773	1,168	-605	営業利益	
営業外収益	24		-24	—	
営業外費用	89		-89	—	
経常利益	1,708		-1,708	—	
特別利益	154		-154	—	
特別損失	544		-544	—	
—		68	68	金融収益	有価証券の売却益、受取利息、配当金等
—		17	17	金融費用	有価証券の減損等
税金等調整前当期純利益	1,317	1,220	-97	税引前利益	
法人税等	393	311	-82	法人所得税	未実現利益の消去に係る税効果の税率変更の影響、 その他IFRSの各調整項目に係る税効果
当期純利益	924	909	-16	当期純利益	

40

「コア」利益の定義

IFRS

会社の経営における経常的な収益性を示す指標として各種コア利益を定義

IFRS (フルベース(調整前))

売上高
売上原価
売上総利益
販管費
研究開発費
無形資産償却費
持分法による損益
その他の収益
その他の費用
営業利益
金融収益
金融費用
税引前利益
法人所得税
当期純利益

コア営業利益

調整金融収益・費用
(有価証券売却損益と減損等
を除外)

IFRS営業利益から、
その他の収益/費用を除外

コア当期純利益

コアEPS*

*コアEPSの予想は前期末株式数を用いて算出

減損や事業
再編費用等

利息、
受取配当等

41

フルベース(調整前)からコアベースへの調整表

IFRS

(億円)

科目	2013年度実績		
	フルベース	調整	コアベース
売上高	11,399	-	11,399
売上原価	3,306	-	3,306
売上総利益	8,093	-	8,093
販売費及び一般管理費	3,970	-	3,970
研究開発費	1,915	-	1,915
無形資産償却費	360	-	360
持分法による損益	15	-	15
その他の収益 *1	116	-116	-
その他の費用 *1	810	-810	-
営業利益	1,168	694	1,863
金融収益 *2	68	-52	16
金融費用 *2	17	-12	4
税引前利益	1,220	655	1,875
法人所得税	311	236	547
当期純利益	909	419	1,328

*1: コア実績からは「その他の収益」及び「その他の費用」は除外されています。

「その他の収益」及び「その他の費用」には、有形固定資産の除売却に伴う損益、有形固定資産及び無形資産の減損損失、事業再編に伴う損益のほか、為替差損益などが含まれています。

*2: 「金融収益」と「金融費用」の内、売却可能金融資産の売却に伴う損益や減損損失は、調整項目としてコア実績からは除外されています。